

「県立高等学校の活性化に関する提言」中間まとめに対する パブリックコメントの概要と推進会議としての考え方

1 募集期間

平成19年8月21日(火)～9月3日(月)

2 募集方法

県のホームページにおいて、「県立高等学校の活性化に関する提言」中間まとめとその概要を掲載するとともに、出先の県事務所や県税事務所に同資料を配備して、郵便(9月3日消印有効)、ファクシミリ、電子メールのいずれかで意見を募集。

3 募集結果

意見提出者：141人(216件)

年代別内訳

区 分	人 数
30歳未満	2
30歳代	5
40歳代	25
50歳代	36
60歳代	26
70歳以上	4
不 明	38
団 体	5
計	141

男女別内訳

区 分	人 数
男 性	77
女 性	45
不 明	14
団 体	5
計	141

地区別・地域別内訳

区 分	人 数
珠洲・能登地域	8
輪島・穴水地域	88
七尾・鹿島地域	2
羽咋都市地域	3
県央・県南地区	37
不 明	3
計	141

4 意見の内容及び推進会議としての考え方

第1章第1節について - 県立高等学校を取り巻く現状 -

	意見のまとめ	意見に対する推進会議の考え方
	生徒減少が見込まれる県北地区の統合については、避けて通れず、地域からも理解が得られる妥当な内容である。	<p>中学校卒業予定者数は、今後、県全体としては、平成28年度までは概ね1万1千人台を維持するものの、県北地区では450人の大幅な減少が見込まれ、生徒が互いに切磋琢磨できる活力ある教育環境を確保するためには、この地区における県立高等学校の統合等の検討は、避けて通れないものと考えている。</p> <p>は本文の「2 市町村合併の進行」「3 急速な技術革新、産業構造の変化」の趣旨と同じ内容である。</p>
	市町村合併に沿った形で統合し、学校規模を大きくするのは避けて通れない道である。	
	伝統産業を大切にしながら、次世代の能登を担う人材育成が必要である。	
	教科の成績や点数を競うことに偏った高校再編であってはならない。	本提言は、学習活動や生徒会活動、部活動など、学校のあらゆる教育活動の場面における活力ある教育環境の確保の観点からまとめたものである。
	地域社会の活力源であり、教育・文化の拠点である高校を存続すべきである。	あくまで生徒を第一にした教育的な観点に立って検討し、まとめたものである。県北地区については、これまでの地域的・文化的な繋がりを考慮して、4つの地域に分けて議論したものであり、統合後の学校が、それぞれの地域における新たな教育・文化の拠点となるものと考えている。

第1章第2節について - これまでの再編整備の検証 -

	意見のまとめ	意見に対する推進会議の考え方
	平成11年策定の再編整備の状況が分かる資料を掲載すべきである。	前回の再編整備に関する基本指針の要旨及び再編整備案を資料として追加する。
	前回の再編整備の進捗状況を検証すべきである。	前回の再編整備の進捗状況等については、5～6ページに記載のように、円滑に実施されており、また、統合前と比べ、志願倍率の上昇など、総じて成果が現れている。

第2章第1節について - 全日制高等学校の規模等について -

	意見のまとめ	意見に対する推進会議の考え方
	4～8学級を適正規模とするのは至極妥当である。	<p>8ページに記載のように、小中学校段階とは違い、高等学校段階にあつては、より広い地域から集まる多くの生徒たちが、学習活動や生徒会活動、部活動等の集団の中で互いに切磋琢磨できる一定規模以上の学校であることが必要であると考えている。</p> <p>また、2学級規模では、生徒同士の切磋琢磨の機会が少ないだけでなく、様々な専門性を持った教員との出会いの可能性も少なく、やはり、一定規模以上の学校であることが望ましいと考えている。</p>
	2学級規模の学校は効果的な教育活動が難しく、却って、教育格差を生む大きな要因となっている。	

9学級規模の学校は、中学生のニーズなどが強く、早急に8学級にする必然性はないのではないか。	1学年9学級規模の3校については、志願倍率が高いことや、県央地区の中学校卒業予定者数が今後10年間は大幅な増加傾向にあると予測されることなどから、今しばらくは推移を見守る必要があると考えている。
県央地区の大規模校の学級数を減らせば、県北の学校に生徒が集まるのではないかと。	
適正規模は県内一律に捉えるのではなく、県北地区の地域事情を考慮すべきではないかと。	適正規模や1学級の生徒数の標準については、同一水準の教育を受ける機会を平等に与える観点から、県内各地区で同一であることが望ましいと考えている。
小規模校には小規模校のメリットもあるのではないかと。	分校であっても、また、40人未満の定員として充足率が見かけ上、向上しても、学校全体の生徒数が増えるわけではなく、学習活動や生徒会活動、部活動等において、生徒が互いに切磋琢磨できる教育環境が確保できるものではないと考えている。
分校を設置し、本校と合同で行事を実施すれば、切磋琢磨できる教育環境を確保することができるのではないかと。	
20人学級や30人学級を導入することによって、一定規模の学級数を維持した学校となるのではないかと。	
県内の私立高校の適正規模にも言及すべきである。	本推進会議は、県教育委員会から、本県における県立高等学校の活性化策について検討している。
統合に伴い、通学時間や経費などが増える。何らかの通学支援が必要である。	本文の「3 統合等を進めるに当たっての留意事項」に記載のように、地域事情を考慮した発展的統合とすることや、進学機会を確保するために必要な対策を講ずることが望まれるとし、22ページにおいて、県教育委員会が具体的な措置を講ずることを期待しているとした。

第2章第2節について - 活性化に向けて検討が必要な事項について -

意見のまとめ	意見に対する推進会議の考え方
総合学科には多くの克服すべき課題があり、解明が必要である。	変化の激しい今日の社会にあっては、生徒自らが自己実現に向かって学びを深めていくという総合学科の理念が必要であり、時代や社会の変化、生徒のニーズの変化等に対応するよう、絶えず点検・評価を加えながら、改善を図るべきと考えている。
地域が応援できる新しいタイプの学科をもつ、魅力ある学校づくりをお願いしたい。	14ページに新しく「(7) その他の専門学科・専門教育」の項を設け、「活力ある人材を幅広く育成する新しい学科・コース等の導入を絶えず検討していく必要がある」旨を追加する。
社会のニーズを踏まえた専門学科を設置し、職業教育を展開してほしい。	近年、急速な技術革新や産業構造・就業構造の変化により、これまでの専門学科・専門教育では社会の進展に必ずしも十分に対応できない面も見られることや、上級学校進学への対応も検討する必要があることから、これまでの学科の枠を超えた柔軟な専門教育の展開について検討する必要があると考えている。
統合前に各校が保持していた個性を、統合後も失わずに生かすべきである。	なお、生徒減少の著しい地域においては、中学生に高等学校教育の選択肢を保障するため、通学可能な範囲に、複数学科を併せ持つ高校を設置することが必要であると考えている。
地域内における普通高校、職業高校、総合学科高校のバランスを考慮すべき。	
高校再編の必要性は十分理解できるが、学校の選択肢を確保すべきである。	

<p>定時制高校は多様な生徒のニーズに応えるべきであり、今回の再編計画はベストの案である。</p>	<p>多様な学習歴やライフスタイルを持つ生徒の学習ニーズに、より柔軟に応えるために、3部制の独立校を県北・県南地区にも配置する必要があると考えている。また、前述のように、進学機会を確保するために必要な具体的な措置を、県教育委員会が講ずることを期待しているとした。</p>
<p>定時制の統合により、通学に要する時間や経済的な負担の増大、規模が大きくなることで不登校の経験を持つ生徒が通学できなくなることなどが懸念される。</p>	

第2章第3節について - 各地区ごとの将来展望 -

意見のまとめ	意見に対する推進会議の考え方
<p>飯田高校は進学校として存続させ、珠洲実業高校は地元に着した学校として独立して残すか、あるいは、珠洲実業高校、能登青翔高校、能都北辰高校の3校で統合し、実業系の学校としてはどうか。</p>	<p>珠洲・能登地域の中学校卒業予定者数は今後10年間で約3分の2に減少すると見込まれており、既に大幅な定員割れとなっている飯田高校が3学級を維持して、ご指摘の進学校としてのみ存続することは難しいと考えられる。また、普通科志向の強い能都北辰高校を実業系高校だけに改編することは理解を得にくく、そもそも、この地域での実業系単独校へのニーズはさほど高くはないと考えられる。</p>
<p>輪島らしさ、門前らしさを優先した再編のコンセプトとすべきである。</p>	<p>本文の留意事項に記載のように、統合校にあっては、それぞれの学校が、これまで創意工夫して取り組んできた様々な活動を継承・発展させ、上級学校はもとより、幅広い進路希望にも対応できる、新しい学校づくりを行うことを期待している。</p>
<p>輪島高校を普通科高校として存続させ、輪島実業高校と門前高校を統合して地域の職業高校とすべき。</p>	<p>輪島・穴水地域においては、2学級規模の輪島実業高校でも定員割れを起こしており、実業系単独校へのニーズは高くないと考えられる。</p>
<p>中高一貫教育において成果を上げており、門前高校を存続させてほしい。</p>	<p>また、門前高校は進路実績もあるが、今後、地元中学校卒業生の一層の減少が見込まれており、少なくとも中高一貫教育に関しては、当初ほどの成果は期待しにくい状況である。</p>
<p>1市町に1校が原則だと思し、交通の要衝に位置することから、穴水高校を存続させてほしい。</p>	<p>地元穴水町の中学校からの穴水高校への進学割合は約5割程度であり、将来の生徒減を考えると、やがて2学級の維持も難しい状況であり、周辺の高校との統合が望ましいと考えている。</p>
<p>穴水高校、中島高校、門前高校の3校を統合してはどうか。</p>	<p>また、近隣の旧中島町、門前町からの入学実績も乏しく、3校が統合しても、最低学級規模の3学級の確保も難しいと考えられる。</p>
<p>中島高校演劇コースの成果を見ると、小規模校であるが、人間形成の場として有効である。</p>	<p>中島高校の演劇教育を通しての人間教育への評価は高いものの、学校全体の充足状況を改善するまでには至っていないことから、統合校において、演劇教育を更に継承発展させてほしいと考えている。</p>
<p>富来の国際コース、高浜の機械システムを、統合校に存続させてほしい。</p>	<p>統合校においても、国際コースや工業教育の継承のみならず、かつてあった商業教育の導入により、生徒の幅広い進路希望に対応できる学校づくりを目指すことが望ましいと考えている。</p>
<p>もっと地元の声を聞くべきである。</p>	<p>本推進会議では、これまで県内4地域での意見聴取やパブリックコメントを実施しており、今後、県教育委員会が、生徒、保護者のニーズ等を踏まえ、再編整備を進めることが望ましい旨を追加する。</p>

